

## 平成25年 北海道小学校長会地域活性化支援事業 【研修レポート】

- 1 実施地区 : オホーツク地区
- 2 研修者指名 : 橋本 勝見 (遠軽町立遠軽小学校)
- 3 研修実施日 : 平成25年11月18日 (月)
- 4 研修先 : 千葉県習志野市立藤崎小学校
- 5 研修目的 : 確かな学力の育成を図る
- 6 キーワード : 学力向上、校内研修の活性化、授業改善



### 1 はじめに

11月18日に千葉県総合教育センター研究協力校（児童生徒の思考力を伸長する学習の在り方に関する研究）である、藤崎小学校の算数科研究実践発表会に参加致しました。藤崎小学校は、昭和52年から習志野市教育委員会より算数科の研究指定を受け、実践研究に取り組んできています。研究は、「子どもたちがじっくりと問題に取り組めるような活動、思考力を伸ばすための活動の在り方」に焦点を当ててきました。この研究成果は、問題解決の過程で必要な力を身に付けながら、自分自身で筋道を立てて取り組んでいけるようになった子どもたちの姿に現れてきました。しかし、一方では、子どもたちは多様な考え方をすることが苦手であり、話し合いの中で友だちとの考えの違いを理解したり、よい点を指摘し合うことが不十分だ、という課題も明らかにされました。そのため、子どもたちの思考力や表現力をさらに高め育むために、「教材の本質」と「話し合い活動」に焦点を当てた授業実践を積み重ねてきているそうです。

私が今回、同校を視察校に選んだのは、算数科の授業の在り方を求める遠軽小学校の校内研修と共通する内容が多く、そのことを自校の研修に生かすことができるだろうと考えたためです。また、オホーツク管内での研修風土と道外の学校における校内研修風土の違いなども知りたいと考えたた

めです。

### 2 藤崎小学校の研究概要について

研究主題は、「自ら学び育つ算数学習の在り方」～考える力を伸ばすために～です。

具体的には、子ども自らが課題を見付け、自分で工夫して考えを進め、主体的に判断し、よりよく問題を解決することができるようになることを目指しています。これは、「生きる力」の育成と藤崎小学校の学校目標である、「生涯を知的に心豊かにたくましく生きる児童の育成」とに関連付けられています。

(1) これまでの研究において明確にされていた課題は

- ① 課題解決の中で、1つの解決から次の課題へ、より質の高い考えを見付ける場面が少なかったこと。
- ② 比較検討場面での、「考えの練り上げ」「考えをまとめていく」「考えを一般化する」という話し合い活動が十分ではなかったこと。
- ③ より多くの子どもが「考える活動」に参加できたかという点で十分ではなかったこと。
- ④ 全体の話し合いの中で考えの練り上げが難しく、考えを深めるに至らないこと。

このために、「思考力を伸ばす活動」と「じっくり問題に取り組む活動」を取り入れた授業づくりの研究が進められています。

## (2) 望ましい授業像について

- ・教材の本質に迫る素材提示がある。
- ・既習に基づいた自力解決場面がある。
- ・比較検討による学び合いが充実する。
- ・定着した知識・技能の発展活用がある。

## (3) 2つの仮説による研究について

### 仮説1

**素材や素材提示の工夫をすれば、教材の本質に触れることができ、考える力が伸びるであろう**

児童自らが問いをもつ

### 素材

教材の本質

- ・教材のよさ・教材の価値
- ・教材のねらい・教材の原理

### 仮説2

**学び合いの質を高めていけるような工夫をすれば、考える力が伸びるだろう。**

### 学び合い

- ・一人では考えもつかなかったようなよい考えが分かる
- ・自分の考えが認められる
- ・話し合いの中で考えが深められる

教師の意図を伝える発問・教具の工夫

学び合いの質を  
高める

児童自らが、なぜ、どうしてと考えを自ら深めていこうとする学習態度

## (4) 成果と課題

### ① 成果

- ・素材や素材提示の工夫をすることで教材の本質に向かうような問いをもつことができた。
- ・話し合いの形式で隣席同士、班別、一斉を工夫し、様々な考えを出し合える場を意図的に設けることができた。
- ・既習を生かした発展教材は、学び合いに有効であった。

### ② 課題

- ・導入場面における教材提示を更に自力解決に結びつけていけるようにする。
- ・児童自らが問いをもてるような素材を更に開発していく。
- ・導入場面の指導者と児童間のやりとりも学び合いである。どう工夫していくか。児童のうなづきや失敗例を授業にどう生かしていくか。
- ・数学的な考えを伸ばす発問の工夫

## 3 終わりに

視察を終えて学ばせていただいたことは、次の4点です。①研究協議での若い先生方が、忌憚なく自分の考えを述べ合うなど、活発な研究協議がなされている。②指導主事や千葉大学附属小学校教諭等を有効活用し、校内研修の深化を図っている。③算数科を長年継続研究してきた。④公開研究会に向けて段階的に公開の授業公開をしている。

この事業に参加し、多くのことを学びました。心より感謝申し上げます。

